



実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル(表の枠)の高さを調整していただいて構いません。

ただし「実践団体・プラン基本情報」全体で4ページ以内に収めてください。

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2026 年 1 月 12 日 (2025 年度のチャレンジプラン)
プラン名	「劇場空間で防災体験 ドキキ?! 親子のマナビ・バ!!」
実践団体名	企画団体 ocotodunamo (オコトドナーモ)
代表者名	内田 眞希 (三枝)
電話番号	080-1790-9054
メールアドレス	ocotodunamo@gmail.com
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	京都を中心に活動する文化芸術団体。「おとなと子どもが同じ目線でみる場所」を理念し、ユーモアを取り入れた演出を通じて、世代を問わずテーマ性のあるパフォーマンスを展開し、文化芸術と地域コミュニティの活性化を目指します
所属メンバー お名前やご所属, 役割などを差し支えない範囲で書いてください	三枝眞希 (代表) 古長藍 (制作)
活動の本拠地 団体の事務所の所在地や居住地など記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。	京都府京都市伏見区
活動開始時期・結成時期	2023 年 8 月 1 日
過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴 (チャレンジプラン以外も含む) をご記入ください	公益財団法人京都地域創造基金「+FUND2023」採択事業 町家×ダンス公演を開催し文化芸術と地域コミュニティの繋がりを育む第一歩を行った。

プランの基本情報

プランでの実践主体 プランを実践した人の主な属性 複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。	4. 地域組織 14. その他 (具体的に: 文化芸術団体)
プランの運営側の人数 (実数)	約 17 人



<p>プランの活動地域</p> <p>今回のプランで活動をした地域を記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。オンラインによる全国発信・世界発信などがある場合には、その旨も書いてください。</p>	<p>京都府京都市</p> <p>京都府京都市東山区</p>
<p>プランの防災教育の対象者</p> <p>防災教育の対象者の主な属性</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 乳児 2. 幼児・保育園児・幼稚園児</p> <p>3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年）</p> <p>5. 小学生（高学年）</p> <p>10. 教職員・保育士等</p> <p>12. 地域住民</p> <p>19. 防災関係者</p>
<p>防災教育の対象者の人数（実数）</p>	<p>約 28 人</p>
<p>プランが対象とする災害</p> <p>プランが対象とする災害</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 地震</p> <p>10. その他（具体的に：停電、緊急避難）</p>
<p>プランの活動目的</p> <p>プランの主な活動目的</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練</p> <p>4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災</p> <p>7. 災害対応能力の育成</p> <p>10. その他（具体的に：停電の疑似体験）</p>
<p>対象者が身につく知識・技能等</p> <p>プランの対象者が身につけることができる知識・技能等</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 地震・津波・火山災害</p> <p>6. 平時に行う被害を出さないための備え</p> <p>7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動</p> <p>8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い</p> <p>9. その他（具体的に：停電時の対応の親子共有）</p>
<p>プランの活動形態</p> <p>プランの主な活動形態</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ</p> <p>4. 総合的な学習（探求）の時間</p> <p>11. 家庭や地域で行う個別学習</p> <p>12. 体験学習 13. 避難・防災訓練</p> <p>15. 読書・絵本・読み聞かせ</p> <p>16. 演劇 17. その他（具体的に：舞台装置を活用した停</p>



	電体験)
<p>プランでの連携先</p> <p>プランで連携した相手の属性</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。いない場合には「いない」を残してください</p>	<p>5. 自主防災組織</p> <p>7. それ以外の地域組織</p> <p>16. 個人</p>
<p>実践にかかった金額</p> <p>チャレンジプラン予算額に関わらず実践でかかった費用の総額をご記入ください</p> <p>具体的金額を記入するか、選択肢から該当しないものを削除し該当するものを 1 つ残す</p>	<p>・ 100 万円未満</p>

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画実施に向けたプロジェクトチームの編成 家庭での防災意識に関する現状把握 防災対策における課題の整理とテーマ設定 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトチーム編成 家庭での防災意識調査 防災対策の課題設定 	<p>劇場と防災スタッフ合計 18 名。Google アンケートにて子育て世帯 35 組（子供 46 名）に回答をもとに全体構成やコンセプト会議を行った。</p>
5月	<ul style="list-style-type: none"> 実施会場の選定 舞台装置を用いた体験演出手法の検討・試作計画の策定 停電発生時を想定した体験シナリオの設計・考察 	<ul style="list-style-type: none"> 会場のブッキング 舞台装置により体験演出の試作や検証 全体の構成内容調整 停電シナリオの考察 	<p>市内劇場を回り、完全停電が可能な「SPACE LFAN」を会場として決定</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画内容を共有し、開催にあたっての安全面やリスクについて関係者と協議 子どもにも理解しやすい表現を用いた停電シナリオの企画・検討
6月	<ul style="list-style-type: none"> 防災チームとの連携 停電パフォーマンス 	<ul style="list-style-type: none"> 防災チーム（JDSA）との講座設定会議 停電をテーマにした演出、稽古および、美術会議。 舞台装置を活用した暗闇体験や避難経路の実践 	<p>JDSA が参画する防災アカデミー（UZUUM 箕面開催）に参加し、防災イベントの仕組みや現状把握に努めた。舞台装置のテストが難しかった為アーティストチームにおいて「停電」をテーマとした検討会を実施し、発生の予測が難しい特性をどのように演出へ落とし込むかについて試行錯誤を重ねた。</p>



7月	各講座決め ・演出意図に基づく美術材料の選定計画	計6個の講座内容の決定 ・美術材料の選定	①停電パフォーマンス②暗闇セッション③防災トイレ講座④親子で1分避難シミュレーション⑤防災ビニールWS⑥防災ダンスWSに決定
8月	各講座の話し合い	・既存講座のを新しく分析していく	・各講座内容を共有した上で、舞台空間を活かしてアップデート可能な要素や、子どもの興味を引く演出方法、ならびに講座として譲れない重要事項について協議を行った
9月	・防災専門家による中間監修を取り入れた演出内容のブラッシュアップ計画 ・事業周知に向けた広報用チラシ作成計画	・JDSAによる中間監修にて停電パフォーマンス演出のブラッシュアップ ・広報用のチラシ作成	・停電パフォーマンスの稽古を防災専門家に共有し「停電を身近なものとして捉えるか」「恐怖として伝えるか」といった観点から助言を受け、演出内容のブラッシュアップを行った。 ・広報チラシに事前予約フォームを連動させ、停電体験の参加人数および年齢を事前に把握することで、プログラム実施時の安全確保とリスク予防を図った。
10月	各講座のブラッシュアップと導入を共有する	講座内容の全体打ち合わせ、実践	オンラインにてシナリオの共有や導入決め会場準備等
11月	・広報開始	・一般応募開始 ・京都市インフルエン警報レベルに伴い対策会議	・京都市内の幼稚園・保育園、防災関連会社に配布し ・SNS活用し全体公募開始 ・オンライン会議後、規模縮小せず実施を決定
12月	「劇場空間で防災体験体験・ドキキ?!」開催	■全体ミーティング ■12/20 搬入～設営～ゲネプロ ■12/21 本番	大人15名子ども13名が全講座に参加。事後アンケート調査や、イベント冊子を配布し家庭での振り返りに努めた
1月	・活動報告	・フォローアップフェーズ ・SNSでの成果発表	・参加者の反応やアンケート結果を整理し、今後の事業改善点



		<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフへの謝礼 ・活動報告書、収支報告書の作成 	を検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS を活用し、写真成果発表 ・ 協力したスタッフ・講師・出演者等への謝礼支払いを実施 ・ 活動報告書作成
2月			
3月			

実践したプランの内容

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

複数の実践についても、該当するセル内に簡潔にまとめて記載してください。写真や図表等を入れてもかまいません。ただし「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。

<p>プラン全体の概要</p> <p>どのような目的のプランか、どのような方法でどのような成果が得られたのかについて、200字～600字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>本プランは、舞台芸術団体が創り出す未就学～小学生の親子世帯を対象にした防災プログラムです。劇場空間の舞台装置を活用し、今までにない新しい体験型の防災講座を作ります。「学ぶまえに楽しむ」ことで防災をじぶんごととして備え、家庭での防災意識の向上を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞台装置の暗転を活用した「停電」の疑似体験での親子連携を育む「暗闇セッション」 ・ 舞台演出を駆使し子供目線のパフォーマンスで防災を「じぶんごと」として捉える ・ きみはどうする？「親子で1分避難シミュレーション」で緊急時のこどもの主体性を育む ・ 子供が話したくなる「防災トイレ」紙芝居で学ぶで命・健康・環境を学ぶ ・ こどもの豊かな想像力と文化芸術の力で従来の枠にとらわれない新しい防災を目指す
--	--



<p>プランの「チャレンジ」の結果</p> <p><u>プランにおいて「何がチャレンジ」なのか、1年間の活動でそのチャレンジがどのような結果・成果を生み出したかについて、200字～600字程度で記載してください。</u></p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>文化芸術の演出を取り入れることにより、従来は座学中心であった防災学習を、「楽しさ」と「体験性」を兼ね備えたプログラムへと転換した。その結果、参加者全員が6つの講座をすべて受講し、途中離脱のない学習環境を実現した。さらに、劇場空間を活用した暗闇体験や、停電を擬人化したキャラクター（停電マン）による演出は、参加者の印象に強く残り、事業終了後も家庭内で防災について話し合うきっかけを創出するなど、学びを日常生活へと波及させる成果が見られた。</p>
--	---

<p>実践内容・方法・成果</p> <p>これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください。どのような成果が得られたのかについてもまとめてください。写真や図表を入れても構いません。</p> <p>このセルの字数制限、写真・図表枚数制限はありませんが、「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。</p> <p><u>実践が複数になる場合には、それぞれについてこのセル内に簡潔にまとめて記載してください。</u></p>	<p>約4時間にわたるプログラムを円滑かつ継続的に実施するため、ストーリーテラー（司会）を配置し、「参加者が物語を旅するように防災を学ぶ」というコンセプトを設定した。各講座への導入では、子どもにも理解しやすい演出を取り入れ、自然に次の学びへとつなげる工夫を行った。プログラム内では、「観劇する」「体験する」「チャレンジする」という異なる関わり方を交互に組み込むことで、長時間にわたって参加者の集中力を維持することができた。</p> <p>また、「親子で1分避難シミュレーション」では、ステージ上で音響・照明を活用し、「身を守り、必要なものを持って避難する」一連の行動を体験的に学ぶ機会を提供した。実際に体験する参加者だけでなく、観覧する側にとっても学びが深まる構成となり、布団を風呂敷代わりに活用するなど、子どもたちの想像力を引き出す防災行動が多く見られた。</p>
---	---

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

<p>1. 【準備段階】<u>運営側の担当者</u> <u>を決める際の工夫</u> 例：役割分担を明確にした</p>	
---	--



<p>2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u> 例：自治会と連携をした</p>	
<p>3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u> 例：協議会を作った</p>	
<p>4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u> 例：活動範囲を限定した</p>	<p>防災の共有が容易ではない未就学～小学生までを対象にしたことで、全体のシナリオ（伝え方）を決めやすくした。</p>
<p>5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u> 例：定例の打ち合わせを設けた</p>	
<p>6. (準備段階) <u>活動場所を確保する際の工夫</u> 例：公民館などを無料で使用した</p>	<p>京都市内の劇場を回り、下見の段階から「完全暗転」が可能か、消防の承諾などが必要か事前調査した。</p>
<p>7. 【準備段階】<u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した</p>	<p>子ども夢基金へも応募し、活動資金の調達に尽力した。</p>
<p>8. (準備段階) <u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた</p>	<p>JDSA（一般社団法人日本災害救護活年協会）の防災アカデミー（UZUUMU 箕面での開催）への参加やオンラインミーティングをで話し合いを図った。</p>
<p>9. 【準備段階】<u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：web サイトを引用した</p>	<p>子どもが視覚から「楽しそう」「なんだこれ？」と没入できるような導入方法を各プログラムに落とし込んだ。</p>
<p>10. 【実行段階】<u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた</p>	
<p>11. 【実行段階】<u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u></p>	



例：行政・自治会等と共催した	
12.【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した	
13.【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた	空間美術の素材をすべて防災に関わるものにし、ペットボトルの材料等、廃棄されたものを地域や会社の協力を経てリサイクル利用した。
14.【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した	
15.【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた	
16.【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u> 例：引き継ぎ書を作った	
17.【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u> 例：web サイトで発信した	活動終了後に SNS で写真掲載を行った。今後はショート動画を作成し参加できなかった方々への周知に努める。
18.【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u> 例：振り返りの会を開催した	



<p>今後の活動予定・今後の展開</p> <p>今後の活動予定や、このプランの今後の展開について、200字～600字程度で記載してください。</p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>各プログラムに対する参加者の反応が非常に良好であったことから、今後は内容を小規模なパッケージとして再構成し、幼稚園・保育園・小学校等での実施を進めることで団体の認知向上を図りたいと考えている。これらの取り組みを通じて実績と周知を重ね、第二回目の劇場型開催へとつなげていく予定である。</p>
--	--

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

<p>その他（PRポイントなど）</p> <p>これまでのセルで書けなかった内容などについてもしあれば記載してください。</p>	<p>現場にいた人にしか感じれないワクワク感や没入感があり、座学では味わえない時間を体験できる防災プログラムになった。</p>
---	---

チャレンジプランを実践しての感想・実行委員会等へのご意見

この項目は審査対象になりません。

任意項目ですので、当てはまるものがあれば記入してください。

<p>チャレンジプランを実践しての感想・想い</p> <p>チャレンジプランを実践して、どのような感想・想いがありますか。率直なお気持ちなどを教えてください。</p>	<p>数ある応募の中から、設立間もない当団体を採択いただいたことは大変光栄であり、前例のない事業に取り組む中で、大きな責任とプレッシャーを感じる一年であった。子どもの感覚や興味、「面白い」と感じる要素を引き出すための検討により多くの時間を割きたい思いはあったものの、報告会に向けた資料作成等の事務作業が多く、十分な時間を確保することが難しい状況であった。</p> <p>一方で、本事業を一年間継続して実施したことにより、劇場関係者が改めて防災について考える機会となり、防災を担うスタッフにおいても「防災の伝え方」に対する意識と手法に大きな変化が生まれた。これにより、今後の活動や次の事業展開に向けた有効なアプローチを得ることができた。また、文化芸術と防災を融合した本講座は、非常に高</p>
--	---



	<p>い完成度と独自性を備えた内容となっており、防災教育チャレンジプランの関係者の方々にもぜひ現地で体感していただきたい取り組みであったと考えている。</p>
--	---